

令和 4 年度タウンミーティング記録

件 名	(仮称)川西市子ども・若者未来計画(案)「市立就学前教育保育施設のあり方」に係るタウンミーティング
事 務 局 (担 当 課)	川西市教育委員会 こども未来部 こども支援課 内線(3442)
開催日時・場所	令和5年2月4日(土)10~12時10分(東谷公民館)
参加人数	42名

【開会】

(事務局)

市長・教育長あいさつ、進め方の説明、計画(案)に関する事務局説明

【補足】以下の意見交換については、個人が特定される内容などを伏せた上で、発言者の発言内容をそのまま掲載することを基本的な考え方としています。

(参加者)

東谷幼稚園の今後について、意見を申し上げます。第7章の97ページの下、現在の課題(1)で、市立、私立幼稚園の児童数の減少について、分析がされています。減少の大きな原因をつくったのは、市だと思っています。時代が進展する中で、幼稚園への入園ニーズが大きく変わり、3年保育等が求められています。そのようなことに全く対応せずに、2年保育のまま、今日に至り、大きく定員割れをしています。

参考までに、近隣各市の状況を調べました。伊丹市、宝塚市、三田市、猪名川町すべてで、2年保育と共に、地域の特性をみながら3年保育を併用しています。本市だけが、2年保育のみという状況を続けています。

計画書100ページ、今後の方針と事業計画に、東谷幼稚園の閉園についての記述がありますが、私は単なる閉園には絶対に反対します。その理由は、大きく3つあります。

仮に廃園になった場合のことを、東谷地域での幼稚園利用の希望と、定員の状況について考えました。東谷小学校区では、3歳から5歳児は、4年度の初めには259名おり、このうち、幼稚園機能の利用希望率は53.7%、139名でした。それに対し、東谷幼稚園がなくなった過程で、利用定員は、山下教会めぐみ園の66人しかなく、73名不足ということになります。エリアを広げ、東谷中学校区で考えると、3歳から5歳児は641名で、幼稚園機能の利用希望者は344名でした。これに対する利用定員は286名で、58名の定員不足になります。

視点を変え、幼稚園の通園区域について考えてみますと、文部科学省の幼稚園の施設整備指針の中に、「通園区域は幼児が疲労を感じない程度の通園距離、時間を設定することが望ましい」とあります。仮に東谷幼稚園が廃園になった場合、園区は、たぶん牧の台みどりこども園になるのではないかと思います。大変広いエリアになり、中学校区では、市の半分ほどの面積になります。幼児が通園できるような距離ではなく、指針の趣旨を著しく逸脱していると思います。

仮に廃園になった場合は、跡地かその付近に、現在のニーズに合った就学前教育・保育施設を必ず確保すべきだと考えます。

(教育長)

公立幼稚園の役割というものがありますが、川西市が人口急増時代に、公立施設だけでは十分に対応できず、積極的に民間施設を誘致してきた背景があるということをご理解ください。そのような中で、公立幼稚園は2年保育を続けてきたという経緯があります。従前から、公立園でも3年保育を実施するべきではないかというご意見はありましたが、数年前に、現存の施設で3年保育をするということは厳しいと判断し、公立でこども園を設置し、3歳児1号認定を対象にして、給食を提供するという形で進めてきました。公立幼稚園単体で3歳児保育をすることはありませんが、公立こども園で受け入れるということです。近隣の市町でも3歳児保育が実施されているということは、市も十分に認識しています。立地条件等の情報も、ある程度把握しています。ただ、3歳児保育を始めた幼稚園では、当初は人数が増えても、その後は少しずつ減ってきています。全体の少子化の中で、1号認定自体のニーズが限られています。

川西市としては、3歳児の教育・保育は、こども園という形で残すという判断をしています。

小学校区内でのニーズについてのご意見をいただきました。地元の子どもたちを地元でみていただくということで、大変ありがたいと思いますし、以前から、東谷地域の幼稚園、小中学校も含めて、地域に支えていただいていることは、十分に認識していますが、地域の公立園で、すべての子どもたちをみるということは難しいと考えています。民間園を選択されている保護者も相当数おられます。サービス面や付加価値など、理由は様々だと思いますが、民間園がもっている教育、保育内容に魅力を感じて選択される方もおられると思います。

市としては、この状況の中で、税金を投入して公立園を建てるということは難しいと感じています。教育委員会の1つの考え方として、役割分担を行い、公立も民間も共に背負っていくべきだという思いがあります。民間施設とも研修会や意見交流会を共催している状況です。公立園についての予算も、民間に回していくべきだと考えていますし、公立園は民間の取組を学んでいくべきだと考えています。

現状では、公立幼稚園から小学校に行く子どもよりも、民間園から小学校に行く子どものほうが多いということで、連携して、学校とどのように接続していくのかという協議も進めています。基本的に最良なのは、歩いて行ける距離に幼稚園があることですが、全国的な少子化でそのようなことは難しい状況になっています。こども園になれば、色々な通園の方法が選択できますので、保護者に選んでいただくということも1つの考え方だと思います。

(参加者)

私は福祉委員会で様々な子どもの事業をしており、幼稚園とも交流しています。幼稚園の先生が、「遊びに来て下さい」と言ってくださって、気軽に来ていただけるようになり、つながりができました。子どもたちと触れ合った高齢者は、とても元気になってお帰りになります。現在の学校運営協議会の理念の中にも「地域での子育て」がありますが、地域での子育てには、やはり地域に子育ての拠点が必要だと思います。拠点がなくなると、地域とのつながりを失ってしまいます。そのように考えると、東谷幼稚園の廃園は見直していただきたいと思います。

子育てを支援するということは、高齢者を元気にすることでもあります。将来の東谷は、幼稚園がないということで魅力を失い、高齢者だけが多くなり、子育て世代がいない地域になりかねません。高齢者ばかりの地域では活性化されず、まちが死んでしまうように思います。子育て世代が喜んで住めるような魅力ある地域にするためにも、幼稚園は残していただきたいと考えます。ただ、幼稚園は、現在の保護者のニーズを満たしていませんので、こども園という形で残していただけたら結構だと思います。廃園にすることになっても、市がその先にどのような形で東谷の活性化を考えているのかという指針を、しっかりと打ち出して

ただかないと、不安だけが残り、「東谷は見捨てられるのか」という気持ちになります。ぜひ、東谷の活性化ということも含め、お考えいただきたいと思います。

(市長)

いつも、地域でのご支援、ありがとうございます。「今後、東谷はどうなるのか」ということについては、現在、北部のまちづくり方針に向けたプロジェクトチームをつくり、令和5年度中に方針をつくりたいと考えております。それは、市が勝手につくるのではなく、地域の皆さんと共に、不足しているものや進めるべきことを検討していく形になります。現在は、第6次総合計画もつくっているのので、それと共に、十分な協議をしていきたいと考えています。

その上で、拠点に関しては、今までは、その機能を公立幼稚園が担っていましたが、公立幼稚園だけがその機能を担う必要はないと考えます。必ずしも幼稚園でなくても、子育ての拠点になり得るところ、高齢者と子どもたちが触れ合えるところ、場合によっては配慮や支援が必要な子どもたちが高齢者と触れ合うことで居場所と感じられるところ等が、今後のまちづくりには必要だと考えております。

東谷を見捨てるのではなく、市内全域で人口が減っていくということで、公共施設や公共機能は減らしていかざるを得ない反面、今までできなかった機能を付加していくことはできると思います。これは、今後のまちづくりの大きなコンセプトになっていくと考えております。先が見えずに不安だという思いがあるかもしれませんが、来年にかけて、しっかりと話し合いを重ねていきたいということでご回答とさせていただきます。

(教育長)

教育の面からのご意見をいただきましたが、子どもの支援や福祉的な支援からのご意見だと、十分に認識しています。東谷中学校のコミュニティスクールの学校運営協議会の取組が非常に注目されており、今年度、文部科学省にも取り上げられました。また学校に来ることが難しい子どもや居場所のない子どもたちに対して、地域で支援していただいていることも大変ありがたいと感謝しております。地域との交流の中で、子どもたちが学んでいくことも多く、高齢者の方にとっても、それが活性化のきっかけになるということで、それはコミュニティスクールの考え方の原点です。市内でも東谷地域が、一番優れていると認識しています。

その拠点が、幼児教育や保育の施設でなければいけないのかということについては、難しい問題だと思えます。ただ、居場所のない子どもの居場所や、子ども同士の交流する場、子育て中の親同士が交流する場、また中学生が違う世代と交流する場は、年々少なくなってきました。教育長としては、そのような場は、やはり教育・保育施設であるべきだと考えます。もちろん、大きなまちづくりの計画の中で、教育・保育単体の目線だけでなく、地域の動きも勘案しながら、継続していける施設が必要で、そこに教育・保育の視点を入れていただきたいと思えます。

(参加者)

私の家族は、2年前に東谷地区を選んで転入してきました。夫の出身地に近く、この地域のことに詳しく、また、自然が多く子育てに適していると考え選択しました。上の子は私立園を卒園していましたが、下の子は東谷幼稚園を選び、私立幼稚園と公立幼稚園の教育に対する考え方の違いを知りました。私立園では、与えられたことはできる子どもに育ちましたが、公立園では、考える力を大切に、子どもを伸ばす教育でした。その方針は、私の子どもには合っていると感じていますし、他の子どもをみても、のびのびと過ご

していることがわかります。細かいよい部分も多くある中で、このような優れた園を廃園にするということは、大変残念だと感じています。良さをもっと知っていただきたいと思います。

少子化問題に関しては、国でも考えられていますが、地方も積極的に考え、引っ張っていただけるとよいと思います。色々なニーズがある中で、こども園も良いと感じていますが、私ども保護者は、保育方針をそのまま受け継いでいただきたいと願っています。英語や体育の学習をするような私立幼稚園が望ましいと考える保護者もおられますし、公立のやり方がよいという保護者もあります。選択ができるようにしていただくとありがたいと思います。

別の場で、東谷でこども園化が難しい理由は、「保育園がないから」とお聞きしました。他の場所では、合体してこども園になっているので、単独では難しいということでしょうか。中学校区で考えると、牧の台では給食も実施されているので可能だということでしょうか。一番良いのは、東谷小学校の給食と一緒に作り、運ぶということでしょうか。給食に関しては、そのような工夫で補うことができないのでしょうか。

「東谷幼稚園が廃園になる」といううわさが広がってしまい、今の状況になっているのだと思います。本来は通園させたいと考えていても、廃園になるところを避け、不本意でもバス通園の郊外の私立園に通わせている方も多くおられます。バス通園が問題視されている中、歩いて行ける東谷幼稚園は、隣が小学校で登校の練習にもなるというメリットもあります。立派な園舎を残し、こども園化していただくとありがたいと思います。そのような試みが成功して、人口が増える可能性もあると思います。

他に、少子化対策として特別にお考えのことがあれば、お聞かせください。市長が積極的に活動されている内容は大変興味深く、関心を持っております。ただ、本日は、1、2歳の保護者の方に周知してご参加いただけたとよかったですと思います。今後も、このような協議の機会を多く設けていただくとありがたいと思います。

(教育長)

公立幼稚園の教育理念にご理解いただけて、大変感謝いたします。公立の幼児教育・保育を実際に行っている先生方にお話をする機会も、現場を見せていただく機会もありますが、私自身が考える公立園の理念の素晴らしさは、主体性だと思います。子ども自身が遊びの中で、自分で考えながら、悩みながら、または仲間とやり取りしながら、園での生活をしていくことは非常に重要だと思います。大人は早期教育や素晴らしい出来栄のものを選択しがちですが、過程を重要視して、子どもたちの葛藤も見守りながら教育・保育をすることが大切だと考えます。

私は学校にありましたが、非認知能力やテストで測れない能力が見直されています。例えば、我慢する力、計画をたてる力、仲間と協力する力等です。アメリカの論文では、そのような非認知能力を幼児期にしっかりと培われた子どものほうが、進学して学校教育を受けたときに伸びていくとされています。もちろん、民間で行われている教育を否定するわけではありません。公立園のそのような理念をご理解いただき、応援していただけて感謝いたします。

民間の教育・保育と公立の教育・保育は、今後は互いに理解しなければいけないと考えています。また、学校もそれぞれの良さを知っていかなければいけません。どのような理念をもち、子どもたちを育てていくのか、双方が理解しながら進めていくことが重要です。

公立園では、配慮を要する子どもたちやこだわりが強い子どもたちを、主体性を大事にしながら育てていきたいという思いもあります。民間でも、そのような子どもたちが、他の子どもたちと一緒に学んでいくことの大事さを考え、大変、力を入れている施設もあります。そのようなことも含め、共に研究、研修をしていかなければいけませんし、良さを発信していかなければいけないと思います。

東谷幼稚園は小学校と隣接しているということで、給食以外の交流も積極的に進めています。給食に関しても、試食会等を実施しています。ただ、厳密に申し上げますと、学校の給食と保育所の給食には違いがあります。こども園や保育所の給食は大変細かな対応が必要です。素材や調理のしかたも、少し違いますので、学校の給食をそのまま導入することは難しいと考えます。試食会のときには、メニューから検討して進めていますが、通年でそのような検討をすることは難しいと思います。

公立こども園化の考え方は、近くに保育所があるということも重要な要素の1つです。1号認定に対するニーズは減少傾向にありますが、子どもの保育に関わるニーズは、依然高い状況です。待機児童0になったということですが、4月時点で0になったということであり、月を追うごとに増えており、ある程度余裕のある施設配置が必要だと考えております。今後も、保育所のニーズをしっかりと見ながら検討したいと思えます。そのように考えると、近隣の保育所はかなり老朽化していますので、更新する際に、幼稚園の問題も含め、新しい公立施設にしたほうがよいということで、公立こども園がつくられています。

ただ、すべてを公立こども園にはできませんので、地域拠点化ということで、各地域のニーズも考えながら進めることが必要になります。公立こども園をつくる際にも、かなり論議がありました。近隣では「こども園化は民間に任せるべきだ」というご意見もありましたが、市が公立こども園をつくったことは、大きな一歩だったと思います。ただ、今後、全てをこども園化することは難しく、どこをこども園として残していくのかを検討する必要があると考えております。

(市長)

少子化対策全体については、来年度予算で、従来よりも少し踏み込みこんだ内容にしたいと考えており、発表は2月9日となります。

少子化とは結果です。予算の使い方については、「子どもが幸せになるために予算を使う」という考え方です。少子化対策として助成金や手当を増やすと、「子どもが増えなければ意味がない」というような評価につながりかねませんが、「子どもが幸せになったかどうか」を政策の尺度にしたいと考えております。少子化は、簡単に解消できる問題ではありません。少ない人数でも、一人ひとりが幸せである市をめざしていきたいと思えます。

転入転出に関して、川西市では年間に1,700人ほどが亡くなられ、900人ほどが誕生しています。川西市の特徴としては、0歳児よりも1歳児が多く、2歳児、3歳児はさらに増えており、少しずつ子どもが増えているということです。転入転出は同じぐらいの数ですが、家を本市に建てる家庭が多くなっているということだと思います。転入された方が「よかった」と感じられるような市になるように努めていきたいと考えております。

給食に関しては、過去に色々な検討を重ねましたが、法律上、その建物の中で調理したものは問題がありませんが、建物の外に運ぶ場合は、調理する施設は工場扱いになります。すると、まちづくりの基準に合わせ、工場を建ててよい地域なのかどうかという問題が生じます。小学校の施設で作った給食を、継続的にこども園に運ぶということは認められないと思えます。

身近に、公立園もあり、私立園も選べるという環境が望ましいと思えますが、子どもの数が減っていく中で、想定数はコントロールしていく必要はあると思えます。市民から預かった税金を使いながら運営しますので、人数よりも多くの空きスペースがある施設を維持することは難しく、規模を縮小していく方向になります。その際に、他の保育園と合併しても、規模が大きくなり過ぎないという判断をしました。この時点でこども園化するということは規模を大きくすることになるので、現時点では、そのような選択肢は選べないと考えています。

公立と私立の保育園で、建設コスト、運営コストは大きく違います。新たにこども園をスタートさせる際には、大きなハードルになることもご理解ください。

（参加者）

東谷幼稚園が閉園になったときに心配していることは、過疎化につながるということです。東谷地区の現状としては、総合病院がなくなっており、その上に子育て世代にとって重要な幼稚園がなくなるかもしれないということだと、若者世代に転入していただきにくいですし、Uターンする若者も少なくなるように思います。ぜひ、廃園というよりも、形を変えてでも、公設民営こども園としてでも存続をお願いいたします。牧の台みどりこども園の定員を増やすので、そちらに回っていただくという考え方もありますが、東谷地区は広く、高低差もあり、通園が大変です。ぜひ東谷地区内にこども園を作っていただきたいと思います。

先日、東谷の納涼祭花火大会、秋祭りで一番に演技をしていただいたのは、東谷幼稚園の園児です。高齢者の方にも笑顔で見守っていただけました。東谷では、そのような笑顔があふれるまちづくりをめざしたいと思います。

東谷幼稚園は90年近い歴史をもっており、ここにおられる年配の方の大部分は東谷幼稚園の出身です。地域の方々の深い思い出の魂だと思しますので、ぜひ残していただきたいと思います。

（教育長）

公設民営ということで、もし希望される園があれば、協議することは否定しません。近隣で希望される園があれば、ぜひ情報をいただきと思います。ただ、民間施設には経営の問題がありますので、ニーズが継続的にあるのかどうかということは、しっかりとリサーチされると思います。

公設民営の施設については、幼児教育・保育施設だけでなく、子どもたちが集まる場所や福祉的な場所も共存する形で、ニーズを掘り起こせるとよいと思います。学童保育を拡大することも考えられます。そのようなことも民間施設にご理解いただければ、協議し、可能性を考えながら検討することはできると思います。

今後は、公営でも民営でも、単独の目的だけでなく、色々な機能を持たせた複合施設を継続的に考えていくということが必要だと言われています。

（市長）

現在、単独で経営されている幼稚園は、厳しく、色々悩まれているということは、認識しておりますので、共存することが実現できればよいと考えます。ただ、こちらから経営方針を変えるようお願いすることはできません。皆さんから、そのようなご要望があるということは賜りました。

現実的は、公設民営というよりも、民間に土地をお貸しするという条件になるかと思えます。現時点で、具体的にご要望をいただいているわけではありませぬので、お約束はできませんが、ご提案としてお聞きしました。

私もお祭りに出向き、色々な方のご協力を感じました。ただ、すべての地域で公立幼稚園や保育園があるということではないと思えますし、私立こども園や幼児施設があるということですので、「公立園で地域の子どもをすべて受け止める」「公立だから地域の子どもを受け止める」という考え方ではなく、「公立私立関係なく、地域の子どもを受け止める」という考え方が、子育ての基本であると思えます。その連携がより深まることが、第一弾としてできることだと思えます。よろしくお願ひいたします。

(参加者)

この計画書をみて、表紙に(案)という文字があり、安心しました。

101ページに認定こども園4園について書かれています。常識的に考え、東谷にあったほうが都合よく、働く母親の夕方の動線が無理なくできると思います。まったく、SDGsの考え方に反していると思いました。他の地域の私立園に通わせるということは、国が唱えている環境問題の面にも反することだと思います。働く母親にとっては何よりも時間が大切で、遠い園よりも近い園に子どもを通わせることが望みです。遠いところまで送迎する大変さをご理解いただきたいと思います。そのようなことが、働きながら子育てができる環境と言えるのか疑問です。

最近、地域の子ども食堂の手伝いをさせていただいていますが、皆さんが地域のために努力されている姿をみて驚き、自分も子どもの居場所づくりについて考えていこうと思いました。そのようなときに、廃園のことをお聞きし、非常に残念に思います。「子どもの居場所がなくなる」と感じます。

世の中では「再生事業」が言われている中で、既存のものをなぜ潰してしまうのか、再生させていくのが、行政が向かう道ではないのでしょうか。

仮に、後に私立幼稚園ができれば、住民の方は大変反対されると思います。狭い道に車が押し寄せることになります。環境整備ができない中で、地域の人が、歩いて通える距離にあり、駅も近く、帰りに買い物してから子どもを迎えに行けるというようなすばらしい環境は、なかなかないと思いますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

(市長)

私も、この場に来る前に、子どもご飯をつくり、食べさせてきました。母親だけが子育てに関わっているのではないと認識しています。

また、持続可能性ということの重要さは、十分に把握しています。ただ、社会全体として人口が減っていく中で、今までと同じものをすべて維持、管理することはできないと思っています。その形を少しずつ変えていくことが、まちとしての持続可能性を高めていくことだと考えます。

仮に廃園になったときに、「民間でもよいのでこども園がきてほしい」「公立こども園ができるとうい」「保育園機能の園が来ると車の問題がある」等、色々なご意見をいただきました。ただ、施設として、既存の施設をどのように使っていくのか、または建て直すのかという問題は、別だと考えます。

牧の台みどりこども園になったときの経緯の詳細を、教育長からお伝えください。

(教育長)

実際の子育てを考えると、近い距離にあり通勤に便利だということは、利便性の面からも重要だと思います。牧の台みどりこども園ができたときには、川西市として、初めてのこども園を作ることによって、様々なご意見があり、論議になったことを記憶しています。「保育園は利便性がよいので、そのままが望ましい」「牧の台幼稚園の園児数が非常に減り、施設をどのようにすればよいのか」というようなご意見もありました。そのような中で、保育所の老朽化、幼稚園が1号認定に踏み込んでいくということで、1つの結論として、牧の台みどりこども園ができました。学校教育というコンセプトとしては、小学校と隣接する形づくりたいということがあります。学校教育と連携できるということは、公立園のよさでもあります。

右肩上がり、子どもが増えており、色々なことを考えられる時代がありましたが、その時考えたコンセプトが、今後、どれだけ維持できるかということも考えていく必要を感じます。限られた財源の中で、どこに、どのような形で投資するのか、検討することが求められています。私としては、教育・保育の面から、

幼児教育・保育施設が難しいとなったときに、どのような形で次の世代に投資していくと合理的で、子どもたちのためになるのかを考えると、こども園という回答になります。

子どもの居場所に関しては、こども園とは違う形で、子どもが多世代とも交流できるような場所をつくるのが、この地域に則していると思います。地域の方々の子どもや福祉への想いを強く感じていますので、そのような拠点をつくることができるとよいと思います。また、まちづくりの中にそのような視点を入れていただきたいと思いますし、そのような部分に、今後は投資していくべきだと感じています。

私も、仕事をもつ妻がおり、3人の子どもを育てました、自分では、子育てに協力しているつもりでしたが、やはり母親が担う部分は大きかったと思います。できるだけ、そのような世代に寄り添った政策を展開したいと思いますが、子育て世代に、今の課題をそのまま先送りするようなことは違うと思っています。悩みながらも工夫して、そのような施策を進めてまいりたいと考えております。

(参加者)

質問2点と要望を申し上げます。

1つ目の質問です。100ページの4「今後の方針」の(1)「市立幼稚園」の清和台幼稚園と東谷幼稚園の事業計画についてお聞きします。どちらの園も廃園予定ということですが、清和台幼稚園は「合同による教育・保育等を提供します」と記載されていますが、東谷幼稚園は「廃園の際は、在園時のあっせん調整に関する支援を実施します」と記載されています。両者の違いは何でしょうか。私は、公立幼稚園が存続することの難しさは理解しているつもりですが、この内容の違いについては、保護者に丁寧な説明が必要だと思えます。

2つ目の質問は、自治会の方からぜひ聞いてきてほしいといわれたことです。新聞に、昨年9月の補正予算を組み、タクシーで、清和台幼稚園から牧の台みどりこども園に送迎するという記事が載りました。特別な理由があったのかもしれませんが、そのような特例が生まれた理由をお聞きしたいと思います。

要望を申し上げます。私が転入してきたときには、川西市は16万5千人ほどの人口だったと思いますが、この20年間で1万人ほど減少しています。色々な理由があると思いますが、市民に負担が増えているのであれば、市の行政改革が必要だと思えます。「子育てがしやすいまち」が実現するように進めていただき、転入者が増えるまちづくり、それも若い転入者が増えるまちづくりをお願いしたいと思います。それと共に、地域のあり方としては、「決めたことは変えられない」という姿勢ではなく、それぞれの地域の意見を取り入れていただき、反映できるところはしていただきたいと思えます。

(市長)

清和台幼稚園については、昨年春の段階で、すでに市として、廃園の条例をあげる予定で、調整を始めていました。令和4年度の年中・年長児は、すでに合同保育をしていますので、「あっせん調整をしている」としています。東谷幼稚園に関しては、来年度の状況、再来年度想定される状況等もご説明しましたが、この段階ですべてのデータが出ているわけではありませんので、5人未満になった場合や年中児が少ないので合同保育になることをご了承した上で入園していただくということです。時点の問題であり、大きな違いはないと思えます。

新聞記事については、説明が不足していると感じています。理由の1つとしては、私どもの決定が遅かったということがあります。令和4年2月頃から、1人になった場合に募集するべきかどうか検討していましたが、突然の募集停止はするべきではないという議論はしていました。令和5年度の年中児の入園をお断りしようと思いましたが、ただ、年中から入園を希望する方にとっては、入園できると考えていたのに断ら

れ、私立幼稚園はすでに締め切られているという状況で、通園先がありませんでした。私どもでは、公立園内で枠を探すことと、近隣の私立幼稚園やこども園にあっせん調整をすることができると考えました。清和台幼稚園に来ていただき、その先の園への交通手段としては、シャトルバスか公用車の送迎、タクシーでの送迎のいずれかを選択したいと考えました。コストの面で、タクシーの借上げが最もふさわしいと判断して、その費用を計上しました。対象の方は、現在、そのサービスは利用されていません。市としては、その方個人を助けるということではなく、制度として幼稚園に就園する権利のあった方が通えなくなった場合の交通手段だと考えております。来年以降も、幼稚園の運営の問題として発生した費用は、幼稚園が負担すべきだと考えております。具体的な内容については、個別に調整中です。

（教育長）

補足をさせていただきます。98ページに市立幼稚園の利用状況がありますが、清和台幼稚園の4歳児では、2019年は13人、2020年は6人です。これは衝撃的な数字で、減少傾向は続くものの、しばらくは緩やかな減少だと考えておりましたが、半減したということです。この数字からも、清和台幼稚園の今後の状況はかなり厳しいということと、地域の方やその時点での保護者の方にご説明いたしました。2021年は7人となり、2022年に1人となりました。幼児教育の1つの目標は集団教育ですので、1人では難しいと思います。年中児1人であれば、年長児と合同保育することが可能ですが、その次の年はどのようにするのかという問題があります。決断の時だと判断し、急遽、閉園の方針を打ち出しました。本来であれば、2年前、その方が2歳児の時点でお知らせすべきだったと反省しております。その時点でご理解いただければ、3歳児保育から始めることができたかもしれません。そのような経緯で、支援をするという結論に至りました。

来年度については、清和台幼稚園から他園に合同保育のご提案をしておりますので、このような表記になっています。

東谷幼稚園に関しては、令和5年度入園予定者2名、令和6年度入園予定者は3名ということで、その方々との協議が必要だと考えております。市としての基本的な方針を踏まえ、「あっせん調整等の支援」という表記をしています。

（参加者）

私は、福祉の分野にも関わり、地域のコミュニティが子どもたちを支えているということが、よくわかりました。その根本が東谷幼稚園だと思います。私も転入してきて地域に助けをいただき、東谷幼稚園で横のつながりをもつことができました。このような自然豊かな土地に憧れをもち、転入してきた人、Uターンしてきた人が多いと感じています。子どもは、どこにいても地域の子もだということはよくわかりますが、他の地域の園に行くことで、地域での横のつながり、保護者のつながりも失われてしまう心配があります。

東谷小学校の学校運営協議会にも参加していますが、保護者同士の横のつながりが失われてしまい、PTAへの参加率も下がってしまっています。私がコーディネーターとして、学校の協力をお願いしましたが、返事をいただけていません。つながりがないという不安を抱えています。

現在、主任児童委員が決まっていない地域が2つあります。東谷地区もそのようになるのではないかとこの恐れがあります。市として、つながりについて、どのようにお考えなのか、お聞きしたいと思います。

（教育長）

東谷小学校のコミュニティスクールで色々な取組をしていただき、ありがとうございました。つながりを

大切に、子どもたちに多くの経験をしてほしいという思いがあり、活動しています。活動は進んでおり、市内の小中学校で実践されている状況です。

横のつながりについては、教育以外でも大きなテーマです。保護者同士のつながりに関しては、PTAという形が最良なのかという課題もありますが、横のつながりが大変重要だということは認識しています。横のつながりが大切だからこそ、今の体制のままで、今のつながりが維持できるのかと考えると、難しいと考えます。PTA活動を否定していませんし、大変よい活動だと思っていますが、就労されている保護者が多い中で、今の活動の仕方ですべていけるのかという課題はあると思います。「はじめは大変かもしれないが、新しい体制をつくっていこう」という考え方が、コミュニティスクール、学校運営協議会です。保護者という枠を取り払い、学校が好き、子どもが好き、地域が好きという方であれば、精力的に学校に入っただき、ご協力いただくということです。PTAも包含していくことが現実的だと思います。

地域学校共同活動というものがあり、地域で活動されている人材に、学校にゲストティーチャーとしてお呼びしたり、業務をお手伝いしていただいたりするという内容です。同時に、地域の行事に子どもたちも参加するという内容です。特に、東谷中学校では、精力的に参加している子どもたちが多いという報告を受けています。

今の体制を見直していきながら、横のつながりを充実した、継続的なものにしていく必要があると考えています。東谷地域は、子ども食堂等の活動、居場所づくりの活動、地域の行事等において尽力していただいている地域だと思いますので、横のつながりについても十分な協議をしていきたいと考えております。

(市長)

地域活動の最前線でご協力いただき、感謝しております。横つながりについては重要なことだと思います。私自身も子育てをする中で、つながり方が変わったと感じています。良くなったこととしては、保護者同士の情報共有はSNSを利用することで容易になりました。一方で、以前は専業主婦が地域活動の主でありましたが、男性女性に関わらず社会の中で仕事をもつ時代になり、就学前の段階では、保護者同士の交流が厳しい状況です。それは就学しても同じ状況ですので、政策的に交流が望める場所をつくるということが、今後、必要になる動きだと思います。

保護者の交流に関しては、公立、私立の差よりも、1号認定が多いか、2号認定が多いかということに左右されるように思います。ただ、地域の中で課題を解決していきたいと考えています。今までは公立幼稚園がその機能を果たしてきましたが、今後は、公立幼稚園以外が機能を果たすことになると思います。今まで、歴史的にも大きな使命をもって運営していただけてきましたが、幼稚園単独の役割はなくなるという方針です。

(参加者)

タウンミーティングを開催していただき、非常にありがたく思います。ただ、時期的にもう少し早ければよかったと感じています。結論ありきでのミーティングだということで、非常に残念です。

冒頭のご意見にあった東谷中学校区の図面が、17ページに載っていますが、地域的には半分を占めております。その中で東谷には美山こども園等があります。これは適正な配置なのか疑問を感じます。

100ページ一番下に、保育園が4つ挙がっていますが、これらは残し、幼稚園を廃園にするということで、川西南保育所はこども園になり、多田保育所は多田幼稚園と一体化してこども園になるということでしょうか。小戸と川西中央保育所も、書かれていませんが、こども園になるのではないかと思います。東谷には、残念ながら保育所がないということですが、以前は、東谷から緑保育所に子どもたちが通っておりまし

たので、そのことは考慮していただいてもよいと思います。

廃園については非常に残念ですので、行政の方からも良い案をだしていただきたいと思います。北部まちづくりプロジェクトが発足したところですので、ぜひよろしく願いいたします。

(教育長)

地域的な配置のあり方については、こども園の拠点という考え方があると思います。子どもの人数もご提示いただきましたが、北部の民間の幼稚園と情報共有すると、状況は非常に厳しいということがわかります。定員割れの状況で苦慮されています。こども園化をお考えの園もありますし、学童クラブ等の別事業をお考えのところもありますし、幼稚園教育を大事にして、縮小しながらも続けていくという園もあります。民間の幼児教育施設も、非常に厳しい状況にあるということ自体は認識するべきだと思います。出生数も、かつては1,000を超えていましたが、現在は800程度で、急に減少してきていますので、そのようなことも配慮に入れて適正配置を考える必要があります。

保育所には園区がありませんので、そこに通いやすい方が選択されて通います。緑保育所にも東谷地区の方が通っておられたとのことですが、それをもってニーズがあると判断することは難しいと思います。

今までとは違う視点、以前の状況も巻き込んだ視点で、子どもの教育・保育施設を考えていく必要があると考えております。

(参加者)

東谷小学校に入学する予定の子どもたちが、他所の幼稚園に通っているとお聞きして、一番大事な時期に、一緒に過ごさせていければ、不安や緊張もなく入学できるのに残念だと思いました。市長も「少子化対策は結果であり、子どもの幸せにつながる事が重要だ」というご意見でした。子どもの幸せとは何かと考えると、就学前の小さな子どもが、大人の都合で遠くの園から、知らない子どもばかりの小学校に入学するよりは、歴史ある地区の幼稚園に通うことがよいと思います。それが叶わないということであれば、教育長が言われたように、総合的に考え、学童保育等も含め、子どもたちをみていくことが必要だと思います。新たな器としては、やはりこども園がふさわしいと思います。何とかご検討いただき、こども園のようなものをつくっていただきたいと思います。

(教育長)

東谷の子どもたちが、近隣の地区の幼児教育・保育施設に通っているという事実は理解しています。それは、給食や3歳児保育というようなサービス面での違いのためなのか、教育理念にあるのか、通学支援にあるのかわかりませんが、周辺施設においても厳しい状況であるということは事実です。

就園時に、きちんとした接続を行うことは、現在も行っておりますが、今後は今以上に必要だと思います。研修会や連絡会を行う必要もあると思います。接続期カリキュラムということで、幼児教育・保育から小学校1年生に円滑に進めるように、学んでいくとよいことを、公立、私立に関わらず、柱にする必要があると国レベルでも言われており、川西市でも進めていこうと検討しています。

保幼小連絡会ということで、小学校の教員、幼稚園・保育所の職員が一同に集い、子どもたちの状況を連絡する機会をつくっております。色々な地域や色々な施設から来られるということで、その情報共有は大事だと考えております。ただ、子どもたちは大変たくましく、色々な環境の差を乗り越えて仲間づくりをしていく部分も持っています。もちろん、同じ施設からスムーズに移行することは望ましいのですが、違う施設から就学したとしても、小学1年生として仲間づくりをする姿を現場でみます。子どもたちはつながりをつ

くる力をもっていると感じています。

(市長)

川西市では、公立だけではなく、公立と私立で分担して担っていくべきだと考えています。もちろん、子どもの全体の数が減っていく中で、施設の数はずつ集約していく必要があります。今回、「何とかこの場でこども園ができないか」「1号認定の受け皿をつくれぬか」というご意見をいただきました。まだ協議していませんので、この場でお約束はできませんが、地域の皆さんのご意見として、しっかりと受け止めてまいります。

【開会】